

アラニカルブ水和剤 オリオン水和剤 40	取扱メーカー： O A T, 協友アグリ, 琉産 原体メーカー： O A T
成分： アラニカルブ〔カーバメート系 PRTR・1種〕……40.0%	性状： 類白色水和性粉末45 μ m以下 毒性： 劇物 消防法： ——

【品目特性】

- アブラムシ類, コナカイガラムシ類及びチョウ目害虫など広範囲の害虫に有効で, 接触毒及び食毒の両作用があり, 咀嚼性, 吸汁性の両害虫に効果がある。
- 果樹, 野菜など幅広い作物に使用できる。
- 合成ピレスロイド剤, 有機リン剤とは作用性が異なり, これらの抵抗性害虫にも効果がある。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】

- 広範囲の害虫に有効で, 合成ピレスロイド剤, 有機リン剤とは作用性が異なるので, ローテーション防除剤に適している。

【薬効・薬害等の注意】

- 水溶性内袋入り製剤を使用する場合は, 内袋は濡れた手では触れないように, 薬剤調整の際には容器内の水に内袋を開封せずにそのまま投入し, よく攪拌する。

- 散布液調製後はそのまま放置せず, できるだけ速やかに散布する。
- 石灰硫黄合剤, ボルドー液, ジチオカーバメート系薬剤, ホセチル剤及び葉面散布肥料との混用はさける。
- 散布量は対象作物の生育段階, 栽培形態及び散布方法に合わせて調節する。
- 訪花性昆虫に影響を及ぼすので注意する。
- りんごに使用する場合, 落果のおそれがあるので開花後1カ月間は散布をさける。
- ぶどうの無袋栽培で使用する場合, 果房に汚れが生じるので果実肥大期中期以降の散布はさける。

【安全対策上の注意】

- 蚕に対して影響があるので, 周辺の桑葉にはかからないようにする。
- 魚類, 甲殻類に影響を及ぼすおそれがあるので, 使用時は注意。
- 共通注意事項7. ミツバチに対する注意事項を参照。



【適用と使用法】

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用 方法	アラニカルブを含む 農薬の総使用回数
かんきつ	アブラムシ類 ミカンハモグリガ カイガラムシ類 ケムシ類 アザミウマ類 ケシクスイ類 コアオハナムグリ ゴマダラカミキリ ハマキムシ類 アゲハ類 ヨモギエダシヤク カネタタキ ミカンバエ成虫 クワノミハムシ	1000 倍	200～ 700 ℓ	14 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
りんご	アブラムシ類 シンクイムシ類 キンモンホソガ ギンモンハモグリガ カイガラムシ類 ハマキムシ類 オオタバコガ	1000～ 1500 倍		前日まで	2 回以内		2 回以内
	ケムシ類						
なし	アブラムシ類 シンクイムシ類 ハマキムシ類 ケムシ類 カイガラムシ類	1000 倍		3 日前 まで	2 回以内		2 回以内
もも	アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ			14 日前 まで			
ネクタリン	カイガラムシ類			21 日前 まで			
ぶどう	チャノコカクモンハマキ カイガラムシ類 ケムシ類			45 日前 まで	1 回		1 回
かき	アザミウマ類 イラガ類 カイガラムシ類 カキノヘタムシガ ハスモンヨトウ カキノヒメヨコバイ ケムシ類 ハマキムシ類			21 日前 まで			
小粒核果類 (うめを除く)	アブラムシ類 ケムシ類			7 日前 まで	3 回以内		3 回以内
うめ	アブラムシ類 ケムシ類 ノコメトガリキリガ						
びわ	アブラムシ類						
ばれいしょ	ワタアブラムシ	100～ 300 ℓ	前日まで	5 回以内	5 回以内		

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用 方法	アラニカルブを含む 農薬の総使用回数
かんしょ	イモコガ ナカジロシタバ ハスモンヨトウ	1000倍	100～ 300 ℓ	前日まで	5回以内	散布	5回以内
メロン	アブラムシ類 ウリノメイガ			7日前 まで	4回以内		4回以内
キャベツ	アオムシ ヨトウムシ タマナギンウワバ アブラムシ類			14日前 まで	3回以内		3回以内
てんさい	ヨトウムシ テンサイトビハムシ	1000～ 1500倍		摘採14日 前まで	5回以内		5回以内
茶	チャノコカクモンハマキ	750倍	200～ 400 ℓ	発生初期	5回以内		5回以内
きく	アブラムシ類 ハスモンヨトウ オオタバコガ	1000倍	100～ 300 ℓ				
さくら	アメリカシロヒトリ		200～ 700 ℓ				